

正安寺 阿弥陀如来及び両脇侍立像

臨済宗円覚寺派 横浜市戸塚区长沼

正安寺由緒

長沼山正安寺は臨済宗円覚寺派。当初は天台宗の寺院で能満寺といった。鎌倉『一切経』校合の折に、親鸞聖人が当寺に7日間逗留した折に、当時の住僧月応は聖人に帰依し浄土真宗に改宗した。『長沼山正安寺縁起』には、村人も聖人の教えに勤化され御同行になったとあり、当寺は「鎌倉入りの草鞋ぬぎ寺」と記述されている。

改宗後300年ほどは浄土真宗の寺院であったが、小田原北条氏による念仏弾圧のために、ときの住僧海弁房は難が及ぶことを危惧し、鎌倉の円覚寺に救いを求めた。その結果、円覚寺から許可を得て、浄土真宗能満寺から正安寺と改称し臨済宗となり弾圧の憂いを逃れることができた。

阿弥陀如来及び両脇侍立像

親鸞聖人は当寺に逗留し、『一切経』校合の合間に阿弥陀三尊像（両脇侍は観音菩薩と勢至菩薩）を彫られたという。阿弥陀如来像の袖には「善信」と刻まれ、花押が記されている。製作年代は鎌倉時代で、現在、横浜市指定有形文化財に指定されている。

臨済宗寺院としては珍しく阿弥陀如来を本尊としているが、4月10日には本尊を開帳し、報恩講が勤められている。昭和30年前半までは真宗寺院の僧侶が中心となり正安寺の檀信徒によってお齋が振



正安寺 阿弥陀如来及び両脇侍立像

舞われるなど、盛大に勤められていたようである。年々参詣者も少なくなって来たと言われるが、現在も住職が導師を務め門徒・檀信徒と共に勤められている。

また、境内には親鸞聖人お手植えと伝える「いぬ榎」がそびえている。